

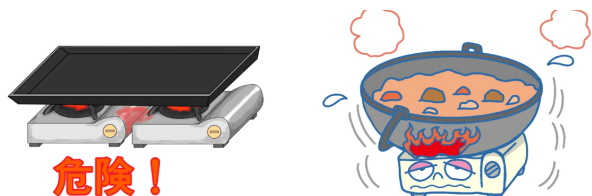
この夏を楽しむために 正しい遊び方を学び、 この夏の最高の思い出を作ろう！



夏といえば、海や山でのレジャーの季節。バーベキューや花火など、火を使うことも少なくありません。カセットこんろや着火剤、ガスライターなどの製品は、使い方を誤ると大きな事故につながる場合があります。製品を正しく使い、安全に楽しく過ごしましょう。

1 カセットボンベの爆発事故

調理によく使われるカセットこんろ。このカセットこんろに装着したカセットボンベが加熱され、爆発する事故が発生しています。このような事故は夏に多く、一度に大人数が火傷を負った例もあります。中でも多いのが、カセットこんろを2台並べて、上に大きい鍋や鉄板をのせる使い方です。このような使い方をするとカセットボンベが熱せられ、爆発する危険性があります。



2 着火剤つき足しは厳禁

火起こしの際には、だれでも簡単に火を起こしやすくするための補助材料として着火剤がよく用いられます。

この着火剤を、火が弱くなってきたからといって、つき足すことは非常に危険です。突然火が大きくなったり、火が飛び散ったりしたことで、火傷をした事故が報告されています。着火剤で点火するときは十分な距離を取り、つき足しは絶対にしないでください。



3 花火遊びには必ず大人が付き添って、 浴衣姿は火に注意

花火には必ず大人が付き添い、火の危険性を教え、着火用のライターは子どもの手の届かないところで管理し、子どもだけで遊ばせないようにしましょう。

また、燃えやすいもののない広い場所で行う、水の入ったバケツを用意するなど、注意表示を必ず守りましょう。

浴衣は綿素材のものが多く、火がつくと一気に燃え上がります。火を使うときは十分な注意が必要です。



4 ガスライターやスプレー缶の放置は危険

ガスライターやスプレー缶を車内など、直射日光の当たるところや高温になる場所に放置しないようにしましょう。放置することで、発火や火災の危険があります。

また、ガスライターやスプレー缶だけでなく、リチウムイオン電池などを含む電子機器（スマートフォンなど）でも過熱による火災事故が発生しています。車を離れる際には、車内にガス機器だけでなく、電子機器等を放置しないようにしましょう。

